

13. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M4806)

文献

Oka H, Matsudaira K, Takano Y, et al. A comparative study of three conservative treatments in patients with lumbar spinal stenosis: lumbar spinal stenosis with acupuncture and physical therapy study (LAP study). *BMC Complementary and Alternative Medicine* 2018; 18(1): 19. PMID: 29351748

1. 目的

日本の腰部脊柱管狭窄症患者に対する3つの保存療法（薬物療法、運動療法、鍼治療）の効果を比較。

2. 研究デザイン

オープンラベル評価者ブラインド比較試験

3. セッティング

岩井整形外科内科病院、東京、日本

4. 参加者

手術目的で受診した第5腰椎神経根障害を呈する腰部脊柱管狭窄症患者。

5. 介入

Arm 1: 薬物療法群（アセトアミノフェン、1日3回、1日量2,700 mg）

Arm 2: 運動療法群（背部屈曲運動、1日6セット、2週間）

Arm 3: 鍼治療群（腎兪・大腸兪・胞兪・秩辺・委中・陽陵泉・承山、40 mm 18号鍼、月5回）。

6. 主な評価項目

主要アウトカムは治療前と治療4週後の Zurich claudication questionnaire (ZCQ)。

7. 主な結果

薬物療法群 38 名、運動療法群 40 名、鍼治療群 41 名が治療を受け、脱落により各群 30 名、35 名、34 名が完遂。手術移行例なし。ZCQ 重症度は各群とも有意に改善（それぞれ）、ZCQ 身体機能は鍼治療群のみ有意に改善。ZCQ 身体機能スコアの減少平均は鍼治療後のほうが運動療法後よりも大きく、有意差あり。ZCQ 満足度スコアは鍼治療後のほうが薬物治療後よりも大きく、有意差あり。

8. 結論・意義

第5腰椎神経根障害を呈する腰部脊柱管狭窄症患者に対して、鍼治療は ZCQ 身体機能において運動療法より、ZCQ 満足度スコアにおいて薬物療法より、有意に効果的であった。本研究は、腰部脊柱管狭窄症の治療における意思決定を支援する重要な新情報を提供している。

9. 鍼灸医学的言及

ZCQ 満足度スコアは鍼治療において高く、鍼灸師の身体接触による情緒的緩和も関与していることに言及。

10. 論文中の安全性評価

深刻な有害事象は発生しなかった。

11. Abstractor のコメント

各種保存療法の総合的臨床効果を相互比較した試験であり、現実の臨床で有用な情報である。ただ、ランダム割付していないので、患者組み入れ時期によって患者の特徴や評価担当者の変移している可能性がある。また、頓用のロキソプロフェンとセレコキシブの使用データが不十分だったため分析できていない点は残念である。将来これらの課題を踏まえたプロトコルでランダム化比較試験が実施されることが期待される。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.7 (要約およびコメント執筆にあたって UMIN-CTR 登録情報 (UMIN 000006957) および次の文献を参照した: 高野裕一ほか. 運動器リハビリテーション 2013;24(4):409-414、同 2013;24(2):173)